

シリーズ 59

我が家の家庭教育

篠本一区 平山久子

長男には、背中のランドセルは、心もち重たそう。山の坂道を越えて、小学校までの三キロメートルは、少々、厳しい道のりのようです。
例え、親が年寄りを大事

「いってきまーす」と、元気よく出かける小学校五年生の長女と、一年生の長男。姉の後にびったりと、くっつくようにして行く。

二人の孫が、遠く小さなまで見送っている私の母。

我が家は、この二人の子供達と三世同居の六人家族です。

姉弟仲良く 『思えば 思われる』

にすれば、子供も、

「子供は親の後ろ姿を見て育つ」とは、よくいわれていますが、家庭での教育は、またくさん学びます。
子供は、まだ知らないことを、お父さんやお母さんから、



物のありがたさなども、折りにふれ教えております。

それから、もう一つ、他人への思いやりを持つこと。
「思えば思われる」の通り、まず、自分から相手を思うこと。

小さい子には、理解できないかも知れませんが、だんだんわかってくると思います。
いつまでも、姉弟仲良く、健康で成人するようにと願っております。

ひかりまちの 風土記 ⑭



大師参り

毎年四月になる と「南無遍照金剛」の唱和と、チン・チンという鉦の音が聞こえるようになります。
これは、四国八十八カ所巡礼地をまねて作られた東総新四国

巡礼地を回っているもので、通称「お大師様」といわれています。町内には、八日市場市から入り、町の上部を回る海聴講と、野栄町から入り、町の下部を回る教海講の二つがあります。
江戸時代の終わりから続いている大師参りの一行も、徒歩から自転車へ、自転車から自家用車へとその姿も変わり、最近では、バスも利用されるようになりました。

新入園・入学を控えて

いま身につけさせよう 子供への交通道徳

